

行仙宿・窓網戸取付け及び

葛川辻水場点検整備と地蔵岳・支点桧への鎖食込み解除

◇実施日；平成28年06月26日(日) 晴

◇参加者；行仙宿班；沖崎吉信、青木宏充、梶野照雄、栗原眞行。

上葛川班；樋口義也、豊嶋 寛、川島 功、生熊敏男、

児嶋道夫、畑林秀味、畑林清子。 11名。

梅雨時季の行事は、直前にならないと決められない、幸い梅雨の中休みとなり実施できた。

先般、木下棟梁が行仙宿・窓網戸設置の採寸をして、サッシ屋に注文して下さった網戸が沖崎宅に届いた。

沖崎氏は、行仙宿↓上葛川班、上葛川↓行仙宿班の2班に分かれて作業して、葛川辻で合流交差する様に企画し参加者、車の手配をして下さる。

行仙宿↓葛川辻↓上葛川班

8時25分補給路登山口に到着、栗原さんの2輪車だけが駐車している。駐機場まで登ってモノレールを降ろし、燃料とオイルを補給していると沖崎さんが到着した。網戸、ガソリン、カセットガス等を積み込み登り始める。

モノレール終点では、青木、栗原の両氏が背負子を手に出迎えてくれた。

9時30分、行仙小屋に到着。少し先に着いた青木、栗原氏は、網戸の荷ほどこきをしていた。網戸は寸法もびったりで、行仙宿小屋6枚、管理棟4枚の網戸取付けは、5分ほどで終わった。

荷物を整理してしばらく休憩、10時に葛川辻に向けて出発した。



網戸を荷台に



網戸の荷揚げ



行仙宿小屋到着



網戸の取付け



旧通信道分岐で



旧通信道(笠捨山捲き道)では、倒木1本を処理、鉄塔先のベンチの固定を行い、11時40分、葛川辻に着いた。葛川辻では豊嶋さん等4名が休憩中、川島さん達3名が地蔵岳の鎖調整に向かっていた。我々4名も昼食にする。

豊嶋・畑林清さんが水場へ降りて行かれたが、なかなか戻って来ない、沖崎さんも水場へ向かう。その間に地藏岳班が帰着した。

しばらくして畑林清さんが戻ってこられ「ロープの結び目が固くて、解くのに苦労している」との事だった。車のカギを交換、玉置神社駐車場で落ち合うことを申し合わせて、生熊・畑林・児嶋さんは、行仙宿小屋に先行、我々も水場点検班の沖崎氏の帰着を待って、13時10分の上葛川へと下り始めた。

上葛川までは、切通や石積みに感心しながら、3回の休憩を含めて2時間10分だった。心配された“ヒル”は3度目の休憩時に栗原さんの靴に一匹見つかっただけで、4人とも吸血被害は無かった。腰を下ろすことなく歩き続けたのがよかったのかもしれない。

16時前に玉置神社の駐車場に到着、売店で神社内紛のお話を聞きながら7人の到着を待った。



切通



見事な石積み



上葛川駐車地に到着

行動タイム

補給路登山口 08:55→09:00 モノレール終点 09:10→09:30 行仙宿
小屋 10:00→10:15 捲き道分岐→11:42 葛川辻 13:10→15:20 上葛
川駐車地 15:30→15:53 玉置神社駐車場。
(記 梶野)

上葛川↓葛川辻(地藏岳)↓行仙宿班

紀北町・樋口氏が、前日電話で「手伝おうか、何人行くんや!」約10人と言うと「多いから止めとこか」2班に分かれて作業するので多いと助かるよ!と伝えて参加して下さる。

最近、行仙宿へは宮井大橋経路となったので、熊野市合流でなく川島宅まで来て頂いた。予定より早い到着で、児嶋宅に立寄り沖崎宅に行くと、全員揃っている。

沖崎車(網戸10枚、ガソリン5L、ガスカートリッジ9本、川島提供の古エンジンオイル缶を積み、樋口・豊嶋・児嶋・川島が同乗)と畑林車(生熊氏同乗)で出発。

深夜に降った雨もあがり、朝から陽光がまぶしい良い天気だ。上葛川登山口(浦向への旧通信道起点)には1時間で到着、前日入山の青木車が駐車済。畑林車をデポし沖崎車は行仙宿登山口へ。



上葛川登山口



上葛川班



雨後・最初の支谷滝

山ヒルが居るとの事から、各自持参の薬剤スプレーを靴。足元に噴霧する。最初の支谷滝を過ぎ、豊嶋氏が、良く見たが山ヒル居ないようだねと...ズボンの上這っているぞと樋口氏。

ズボンの裾をあげると、靴下の上に4〜5匹這い登り、血の吸っている山ヒルも居る。各自、あわててズボン裾を上げて点検すると、殆んど這っている。1cm足らずの小さいヒルも多い。ロングスパッツ着用の樋口氏は、大丈夫な様だ。

立ち止まるより歩こう、小休止は日当たり良く乾いた所で山ヒルが食い付いてないか点検に大わらわだ。



雨後・次の支谷滝



鉄塔分岐で山ヒルは？



葛川辻到着

支谷を横切り、直ぐ横の支谷に沿って急登する地点は、道が判りづらいが、青木氏らのテープ標識を頼りに上ると鉄塔巡視路への三叉路だ。大木に薄い鉄板の標識が、完全に巻き込んである。

地蔵岳への分岐を過ぎてから、しばらく歩いて植林帯の山道で樋口・川島は遅れている人を待つ。しばらくして畑林清子氏が到着。さらに待つて「オーイ！」と声を掛けると返答があるが追いついて来ない。

畑林さん直ぐ下で休憩している様だとの事、葛川辻で待つことにする。尾根に出る頃にはヒルが居なくなり、11時前に先着陣が葛川辻に到着。

地蔵岳鎖場の栓支点の鎖食込み解除班と水場点検整備班に分け、地蔵岳鎖場班は直ちに昼食。11時10分頃に全員葛川辻到着。

昼食後、水場の点検整備をする様に指示して、児嶋・樋口・川島は、地蔵岳鎖場へ。

槍ヶ岳を越え、地蔵岳の最初の鎖場に栓の生木に鎖の食い込みがある。鎖を止めているシャックルは、ステン製の為プライヤーで簡単に外せ、外した鎖の端を引っ張るが全く動かない。食込んだ鎖はどうなっているのか判らず、釘抜きの手先で食込んだ栓の皮

等を剥ぎ取る。



栓支点に鎖食込み



難儀な鎖解除



鎖食込み解除

食込み深く、鋸で少し切るかと用意していると、児嶋氏「判った！鎖で一結びしている」と釘抜きで漸くして緩める事が出来、食込みが解除出来た。

この間、地蔵岳へ登頂していなかった樋口が往復する。

最初の支点はシャクナゲ、次に上の栓が支点であるが、シャクナゲ支点を見て、栓支点を見逃して来た様だ。

シャクナゲに葉が無く、枯れて居るので、栓支点は今後大事な鎖支点であり、シャクナゲと栓の間の枯れた大木根元にも鎖を廻して、シャックルで鎖を繋ぎ止めた。

葛川辻に戻ると栗原氏の顔が見られ、行仙宿班が予定通り到着している。網戸が10枚あり、ドライバーで微調節する事から、少し時間がかかると思っていたら、最近の網戸はバネで微調節するので嵌め込むだけとの事、なるほど進歩しているのだ。昔人間を痛感する。

沖崎、豊嶋氏は、木に捲いたロープが食込みそうなので、弛める作業に水場径に下りているとのこと。

自動車の鍵が交換され、玉置神社駐車場で合流することになる。歩きが遅いからと13時前に4名が行仙宿へ。13時頃に沖崎

氏が戻り、豊嶋氏は水場確認に降りたので、もう少し遅れるとのこと。行仙宿班は、全員揃ったので上葛川へと下山。

13時半前に豊嶋氏が作業を終えて戻り、少し休憩後、最後迄残った樋口、豊嶋・川島の3人が、葛川辻から旧通信道を経て行宿へ。

連休と連休後の旧通信道の改修作業により、雨により棧道路面が締り、見違える出来栄えであり、約1時間20分で行仙宿へ。行仙宿の気温は20℃で、尾根筋は快適に歩けた訳だ。

行者堂の鍵を定位置に戻し、コーヒーで休憩後、15時過ぎに下山する。モノレールにザックを積み空荷で下り、モノレール駐機小屋でザックを引取り登山口へ。

登山口の沖崎車は畑林秀味氏、梶野車は生熊氏が運転して玉置神社駐車場へ。

行仙宿班は先着済で、売店で乾いた喉を潤し顔見知りのご主人と懇談中である。しばらく休憩後、店の主人と本日作業者の記念撮影。

此処で解散となり新宮組は、玉置川集落経由で帰新した。



12:30 葛川辻で合流

上葛川班・全員集合

玉置神社(店主人も)

行動タイム

新宮 6:50→7:50 上葛川登山口 8:00→8:25 支谷滝→8:55 支谷滝
→9:40 鉄塔分岐 9:50→10:00 地藏岳分岐→10:55 葛川辻 11:15→
11:40 地藏岳鎖場 12:05→12:25 葛川辻 13:25→N024 鉄塔 14:10
→14:40 行仙宿 15:05→15:35 登山口 15:40→16:35 玉置神社駐車場
16:55→17:55 新宮。

(記 川島)